

平成 21 年度 近江八幡市 21 世紀環境共生型住宅普及活動事業 公開型 基本設計レビュー 議事概要

平成 21 年 9 月 25 日 (金) 15:00~17:00 近江八幡市役所 第 3・4 委員会室

出席者 環境省専門家 滋賀県立大学環境科学部教授 松岡拓公雄

地域窓口担当者	JIA 環境行動ラボ	林 昭男
株式会社片淵建築事務所		片淵 良、水谷恵美
近江八幡市 都市産業部建築課		園田 毅
近江八幡市 協働政策部広報企画課		福井一暁
NPO エコ村ネット・キョウ		理事長 仁連孝昭、副理事長 鵜飼 修
事業運営事務局		齊藤千恵、大西恒平、飯田 航
一般傍聴者		6 名

1. 設計者からの基本プランの概要説明 (片淵建築事務所 片淵良氏)

- ・ 環境共生型住宅なので、いかに自然の力をうまく使うかに配慮した。(特に、風・太陽・地下水)
- ・ 琵琶湖が北西方向に位置し、琵琶湖からの風が吹く。最も風が抜けやすい方に長手方向をとり、琵琶湖からの風を住宅に取り込む工夫をした。
- ・ 敷地条件として東南側には集会所・公園がある。コミュニケーション性を考え、通り土間を設ける提案とした。この土間に隣接して近江東屋(案)を配し、様々なイベントや日常的なコミュニケーションのできるスペースとして利用する。
- ・ 太陽のエネルギー利用のため、太陽光発電パネル、太陽熱温水器を設置する。
- ・ 南側樹木による夏場の日射コントロールや、空間の上下の温度差による室内環境コントロールを行う。
- ・ 室内に 8 箇所ある設備スペースは、部分的にダクトとして利用し、基礎を温めたり、土間で温まった空気を戻したりする役割ももつ。
- ・ 水は雨水と井水を利用。地下 3~4 m に地下水があるが、金気が多いため、外部の散水用や空調熱源としての利用を提案した。
- ・ 地下水熱をヒートポンプユニットを介して利用する空調システムを提案する。
- ・ 給湯には、太陽光温水パネル温水器と補助熱源のヒートポンプを組み合わせたシステムを提案。

2. レビュー内容

- ・ 今回のエコハウス事業の狙いは、「特別なシステムや先端技術を導入する」ことではなく「省エネ性能などエコハウスが本来持つべき基本的な要件をきちんと押さえている」こと。それを特徴とした。(松岡氏)
- ・ 自転車置き場を配置してほしい。(松岡氏)
- ・ 室外機などの機械設備を予め、景観上配慮して設置すること。(松岡氏)
- ・ 当初のプロポーザル提案にはないが、近江八幡のエコハウスなので葦の利用を検討していただき、

葦葦屋根を検討していただいている。(仁連氏)

- ・ 夜間にガラス戸、窓を空けて通風がとれるように、足元にスリットを入れてナイトパーズを取り込めるようにするなど、細かい配慮が必要。(松岡氏)
- ・ モデルルームとして利用をするなら、家事動線を再検討し女性にも魅力的なプランに。(鵜飼氏)
- ・ 小舟木エコ村風景づくり協定を 100%実行していることが必要。(林氏)
- ・ 自然エネルギーというのはエネルギー量として弱く、機械的な空調のような力はない。予測やシミュレーションが難しいだろうが、少しずつ改善していけばよい。(林氏)
- ・ 葦葦については、普及性を考えると違和感がある。実行するのであれば、徹底的なシミュレーションをしてはどうか。(林氏)
- ・ 明るさを確認して、できるだけ照明が必要ないようにすること。(鵜飼氏)
- ・ 東屋もパッシブデザインを採用してはどうか。(東屋に)かつてのサステナブルデザインを踏襲する基本があり、(エコハウス本体は)これを現代風にアレンジしている、というところを対比しながら説明できることが大切。二つの部屋の中では衣服も変わるだろう。トータルなプレゼンの仕方を検討してほしい。(鵜飼氏)
- ・ 宿泊体験は、市の施設利用計画上、この建物では難しいと考えている(福井氏)
- ・ 構造材や構造用合板には県産材や国産材を積極的に活用してほしい。(林氏)
- ・ 湖国エネルギー創造住宅 なのでエネルギーを創造した方がよい。太陽光発電等、容量をさらに検討してほしい。(林氏)
- ・ 通り土間に面した部分は、ガラス面積が大きく熱損失も大きい。断熱性能は十分に確保するように計画してほしい(事務局)
- ・ 東屋の東側を土壁に。版築でつくったらどうか。(仁連氏)
- ・ 琵琶湖に面した地域で風が強いので、冬場は土間の風除けの配慮が必要かもしれない。(鵜飼氏)

(レビュー後の会場傍聴者との意見交換)

- ・ 近江八幡といえば八幡瓦。近江八幡らしさをプランに取り入れてはどうか(傍聴者 A 様)
- ・ 春分・秋分の方向に建物を振って配置してはどうか。(傍聴者 A 様)
- ・ プランの中にある設備一式を取り入れることで、従来の住宅と比べて、CO₂ がどの程度削減されるのかを定義することが重要(傍聴者 A 様)
- ・ 今回のエコハウスのような仕様は、どの程度の費用がかかり、どの程度効果があるのかを明らかにしてほしい。(傍聴者 B 様)
- ・ 昔の古きよき時代の建築方法を採用して暑さ寒さは我慢する、というイメージと、現在のエコハウスに対するニーズが一致するのかどうか疑問。田の字型プランなどは、実際の住宅市場では住まい手が求めている。それを普及することがベストか。(傍聴者 C 様)
- ・ エコハウスへの宿泊は難しいという話があったが、宿泊ができないとモデルの説得力が生まれないのではないかと(傍聴者 B 様)

3. 今後の進め方

- ・ 設計者は、今回のレビューでの指摘事項を十分に検討し、可能な限り設計プランに反映させ、最終的には環境省専門家に基本設計の承認を受ける。